

2012 年度 中央大学特定課題研究費 — 研究報告書 —

所属	経済学部	身分	教授
氏名	藪田雅弘		
NAME	Masahiro Yabuta		

1. 研究課題

(和文) 持続可能な観光開発と地域発展に関する研究・地域観光ネットワークを中心に

(英文) A Study on the sustainable tourism and the regional development

2. 研究期間

2年間 2012-2013 年度

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文)

本研究は、地域の持続可能な発展の可能性を、主に地域観光資源の活用、総じて観光発展との関係で研究することである。世界の各地域でグローバルに展開しつつある持続可能な観光発展については、すでに UNWTO など世界機関で先導されつつあるが、実際に個別に地域の観光発展を見た場合、持続可能性を維持するためには、観光のもたらす負の外部性を克服しつつ地域の開発を促す地域経営やビジネスの面、あるいは、もっと重要なこととして、地域間のネットワークあるいは連携が重要である。本研究では、2年をかけて、持続可能な観光発展に関する先行研究のレビューと併せて、具体的な実態調査として、屋久島や沖縄の事例を調査した。また、世界遺産の登録と地域観光の関係を、持続可能な観光発展との関係でも検討した。研究成果としては、2年間の実証、理論面での観光研究を学部大学院での「公共政策」の講義に実地応用したこと、学会での報告を通じて広く意見交換を行ったこと、関連論文を2点刊行したこと、さらに、本研究を通じた成果として、岩波書店から刊行される「環境政策の新地平」の第1巻において「エコツーリズム」に関する章を担当すること(2015年3月刊行予定)、九州大学出版会より「観光経済学講義」(仮題)の編集、執筆を行うこと、自身の著作として「エコツーリズムの公共政策」(新評論から2015年出版予定)などの成果物が成就する予定である。

(英文)

The purpose of this research project was to examine how the regional development can be attained from tourism-oriented perspectives. In the research, I consider how the trade-off between 'Sustainability' and 'Development' in the region form both theoretical and empirical aspects. Some reports at economic society and two papers were published under this financial support. I have already applied them to my lecture and seminar works as the case-studies.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）

藪田雅弘「エコツーリズムと環境保全」（亀山康子・森昌寿編著『グローバル社会は持続可能か』第7章』（シリーズ環境政策の新地平第1巻、岩波書店）2015年3月出版予定

【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）

Masahiro Yabuta, tourism Destinations and the Management of Common Pool Resources: A Case Study of the Marine Resort Areas, The 12th International Conference of the Japan Economic Policy Association, 26 October, in 2013, at Sapporo University

【図書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）

【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）